はじめに

奈良国立文化財研究所が平城宮跡の継続的な発掘調査を実施しはじめたのは1959年、それ以降、さまざまの新しい歴史情報をもたらす成果を得ることができた。この間、発掘調査は、平城宮の中だけにとどまらず、平城京の宮域外の地域にもおよんでいった。

平城宮域内における発掘調査は、一定の計画に則って実施してきた。これに対して、平城京の宮域外の地域、奈良の都の街路と街区が広がる地域の発掘調査は、その多くが進行する各種の開発行為に対処するいわゆる緊急調査であり、おもに奈良市や奈良県が実施し、当研究所もその一部を分担してきている。

今回報告する発掘調査も、また、これまでの平城京域内の発掘調査と同じような緊急調査であり、賃貸住宅を建設する民間の開発行為に対応して、工事の着工前にその予定地で実施したものである。その場所は、平城宮にごく近く、京のかつての街区呼称によると、左京三条一坊十四坪にあたり、往時は大規模な邸宅か、あるいは役所関係の施設があった、と推定できるところである。この三条一坊では、過去25年間以上のあいだに40回に近い大小の規模の発掘調査があった。しかし、十四坪で発掘調査を実施したのは２度、今回の調査もわずかに620㎡ほどの小範囲。これだけでは、この地点の往時の姿を知るのには十分ではないが、1967年に実施したさきの調査結果をあわせると、この十四坪には園池を備えた大邸宅があった可能性が指摘できるようになっている。

平城京域の発掘調査には、今回報告するような小規模なものが少なくないが、その積み重ねから、かつての実態がかいまみえてくる。このような調査は多方面のご協力を得て可能になっている。その状況はこの報告書からも読みとっていただけるであろう。このような状況にある平城京域における発掘調査に対して、今後もご支援とご指導、ご鞭撻をたまわれば幸いである。

1995年３月

奈良国立文化財研究所長
田中　琢